



JAPET&CEC 台湾視察報告会

2025.2.13

4・5日目 :EdTech Taiwan

報告：

東京書籍株式会社 沖田昂平

株式会社Gakken 志村俊幸 細川順子

イベント概要

■ 基本情報

● EdTech Taiwan（臺灣教育科技展） ～AIのある新たな生活へ～

● 日程：2024年11月14日～17日

● 場所：台湾 台北世界貿易センター

● 参加企業：200社

● 講義数：500講義

● 来場者数（4日間延べ人数）：35万人

● 公式サイト：<https://www.edtech.tw/>
 資訊月官網：<https://www.itmonth.tw/>



▲ 会場入り口

イベント概要

- 2018年よりTCA（Taipei Computer Association）が主催。
- 台湾教育部の学習プラットフォーム「因材網」関連のブースが多かった印象。
- 特徴として、子どもたちが学校の先生に引率されて会場見学を行っていた。子どもたちが参加できるブースもあり、コンテンツ選定に子どもたちの意見が大きく影響しているものと思われる。

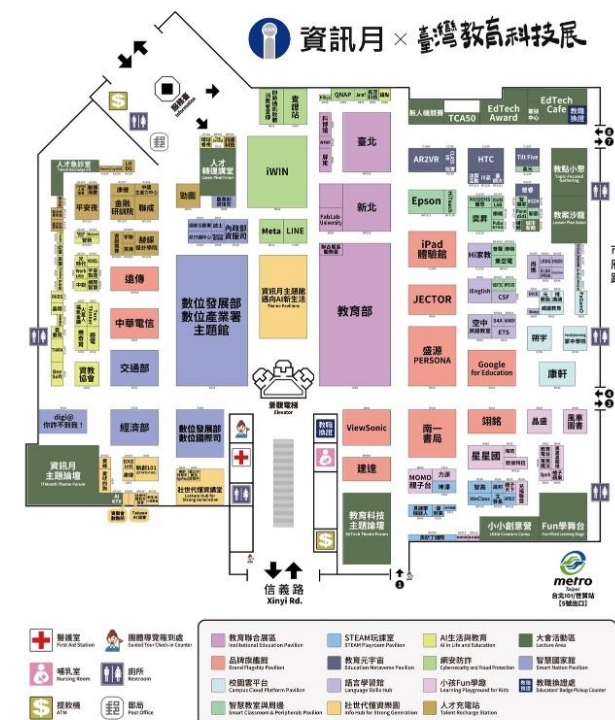


▲ 因材網で提供されているAIコンテンツ



◀ バスで会場に訪れる子どもたち

▶ 子どもたちが参加するブース
写真は算数の授業



▲ 会場図



会場の様子



▲Googleブース



▲VR



▲VIA Technologies, Inc.



▲HiTeach



▲自治体のブース

授業支援システムHi-Teach①

- 寿天小学校でも使用していた授業運用システム。
- 教師と児童・生徒がタブレットを通してインタラクティブに授業ができるソフト。授業に必要なコンテンツが一つにまとまっているため、シームレスな授業が実現できる。
- 例えば、教師が出した問題に児童・生徒がタブレット上で答え、児童・生徒の回答が教師用スクリーンに反映される仕組み。
- 児童・生徒の回答は即時反映。
- 教師対児童・生徒個人のほか、グループ学習も可能。
- 児童・生徒の成績も一括管理。



TEAM Model スマート教育
HiTeach 教学ソフト X クラウド X AI



グローバルスマート教育市場

協力代理店を募集中



授業運営ツール



電子ホワイトボード
ツール



教師と学生のインタ
ラクションツール



学習評価など
ツール

以前、ユーザーは複数のソフトウェアやプラットフォームを使い、頻繁にそれらを切り替える必要がありました。

例えば、ホワイトボードソフトとして「Sketchboard」、「Jamboard」、「myViewBoard」や「Klaxoon」を使用したり、「Kahoot」、「Google フォーム」、「Quizizz」、「Pear Deck」や「Slido」でテストやインタラクティブな活動を行ったり、学習管理システムとしてMoodleやGoogle Classroomを利用することがありました。

しかし、今ではこれらすべてがHiTeachで簡単に行えます！

授業支援システムHi-Teach②

■リアルorリモート、あらゆるシーンに対応。

■収集した成績などのデータはビッグデータとして分析可能。

・1アカウントで30名まで月3万円@台湾。

※日本版は別途相談とのこと

製品価格の例

すべての学習シナリオをサポート



IoT - キャンパスビッグデータダッシュボード

スマート教室はIoT技術を統合し、
校内のリソースを効率的に管理します

TEAM Modelシステムは、IoT技術を通じて優れたスマートキャンパス管理ツールを提供し、AIスマートスクールの構築を支援します。

学校チームは、キャンパスビッグデータダッシュボードを通じて教室の授業、教師、生徒の授業データなどを確認できます。教室の権限管理やさまざまなリソースの使用を管理できるだけでなく、教室データに基づいて学校の発展を調整することも可能です。

学区は各学校の基礎に応じて学校の発展を管理し、スマートシティのスマート教育に必要なインフラを提供します。



HiTeach 5

HiBOOK Group

スマート教育ソフトウェア

マルチAIエンジン搭載

- ✓ AIテキスト分析
- ✓ AI Sokrates サマリ通知
- ✓ AI音声認識 (自動採点)



学生の回答のテキスト分析

AIワードクラウド

4 主要な授業機能
(さまざまなデジタルコンテンツに対応)

- ✓ 教室管理
- ✓ インタラクティブホワイトボード
- ✓ 教師と生徒のインタラクション
- ✓ 学習評価



音声・マルチメディアファイルの収集

即時・ランダムテストモード

7 現代教育コンセプト

- ✓ インタラクション
- ✓ タスク
- ✓ テスト
- ✓ ビア評価
- ✓ 協力 (チームベース学習)
- ✓ コラボ (グループコラボレーション)
- ✓ 差別化

5 学習応用の状況
(全方位サポート体制)

- ✓ 1人の生徒に1台のタブレットスマート教室
- ✓ チームベースの学習 スマート教室
- ✓ インタラクティブスマート教室
- ✓ オンラインとオフラインのハイブリッド学習 スマート教室
- ✓ 生徒が自分のデバイスを持ち込む (BYOD)



8 主要な学習ポートフォリオ
(授業後に自動で成績を算出)

- ✓ 出席
- ✓ スコアリング
- ✓ タスク学習
- ✓ インタラクティブ学習
- ✓ テスト学習
- ✓ 授業パフォーマンスのサマリー
- ✓ 学習への参加度
- ✓ コラボレーション貢献



授業後に自動生成される

統計チャート

スマートピック、スコア管理、差別化されたプッシュ

マウスの各手には指が何本ありますか？



Learn Mode from VIA Technologies, Inc.

- Webサイト : <https://www.learnmode.net/home/>
- 半導体会社による学習支援サイト。あらゆる教科の動画コンテンツなどがあり、教育省も採用。
- 自社コンテンツ7割、他社や政府機関のコンテンツ3割。
- 予習→テスト→補習動画がこのサイト内で完結。



Learn Mode from VIA Technologies, Inc.

- 有料版では高校入試、大学入試指導も。
- 台湾は大学進学率が95%と高く、教育熱が高いため有料版も需要が高い。
- AIによる作文や英作文指導と添削ができる。

學習吧

課程總覽 寒假專區 我的課程 進階學習 教學素材

首頁 / 我的課程 / 出發吧・神獸動物園之旅

參加課程

出發吧・神獸動物園之旅 公開

課程大綱 | 操作說明

什麼是文化資產?

その他

- LINEをはじめ、多くの企業がネットリテラシー育成のゲームやコンテンツを出展。
- 台湾は人口が少ないので、常に海外市場を意識している。
各企業のパンフレットも日本語版がすぐに出てくる。

環境教育 概要

環境教育に関するブース展示では、台湾国内の先進校における環境教育の学習成果が一堂に会したコーナー「深耕市集」が印象に残った。



小学生たち自らがブースに立ち、展示物や学習成果について説明。
中国語や英語に加えて、日本語で説明してくれたトライリンガルもあり、語学力の高さや堂々とした立ちふるまいに感心した。



日替わりで一度に5校程度が出展。出展者・来場者の子どもたち同士の交流が盛んに行われ、互いに学びを深めていた。



環境問題をAIやプログラミングの技術で解決しようとする取り組みが多く、環境保全やSDGs解決に対する高い意識が感じられた。

環境教育 注目校「國立屏科實驗高級中等學校國小部」

- 同校の展示では、複数の新しいテクノロジーやAI技術、プログラミングの制御システム等を組み合わせ、リサイクルできるゴミを識別し、自動で蓋を開閉するゴミ箱を設計する、問題解決型学習の取り組みを紹介。
- 各クラスでのリサイクル意欲を高めるために、利用率に応じて自動的にポイントが貯まるRFIDクラウドを追加し、クラス報酬制度を導入した。
- その結果、衛生ボランティアの負担が軽減。リサイクル率も向上した。



特別支援教育 概要

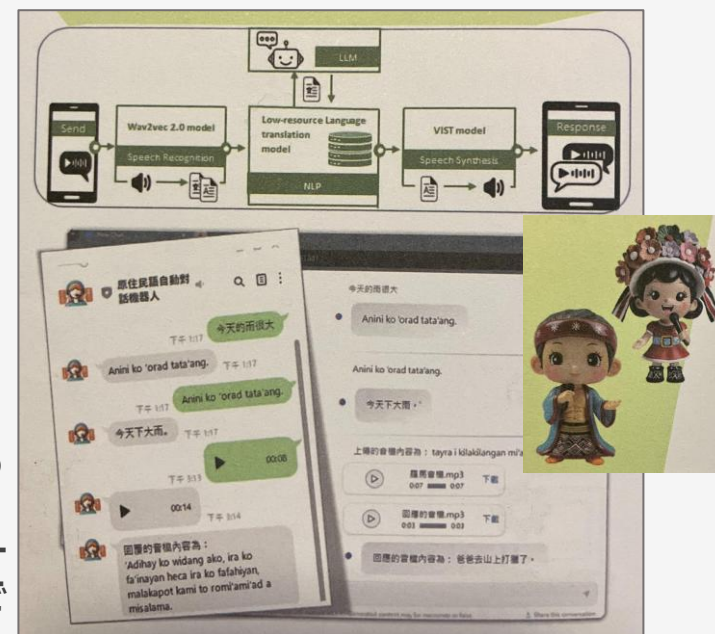
- 特別支援教育に関わるブース出展や教材は、全体的には少なかった。
- 特別な支援を要する児童・生徒や、少数民族などのマイノリティを対象とした教材やサービスの多くは、デジタルやAIの技術を活用することで、教育的課題や文化の継承を広く一般に喚起しようとするものが目立った。



▲南臺科技大学 FunEdu Lab「植感學」

◀EdTech Awardで審査員推薦賞を受賞した、視覚障害者のための自然科学の教科書。植物の形を認識できるよう、音声メモペン、触覚教具、画像表面の凹凸、点字等、あらゆるアプローチが用意されており、通常学級の児童でも楽しく学べる。

▶台湾の少数民族「アミ族」の言語であるアミ語と中国語を双方向翻訳する自動対話システム。AI技術による音声翻訳サポートやチャットボットでの言語トレーニングができる。



▲国立中興大学工学部「阿美族語對話系統開發」

特別支援教育 注目コンテンツ 「AI SOLLY」

特別な支援を要する児童・生徒の会話演習や社会的スキルの習得の指導を目的とした、台湾初のAIインタラクティブバーチャルツール。



特別支援学級、通常学級での複数人演習や、家庭での個別演習に対応。



教室生活、問題解決、感情処理、対人関係等のスキルを、50の学習トピックと100の生活場面から選択して、没入的に体験できる。



会話時の単語数や話すスピード等の学習データがグラフで表示されるので、学習結果の分析や個別の目標設定等に役立てられる。



会話演習を行うバーチャルパートナーは、児童・生徒の反応や会話の内容に応じて、感情や表情を変化させるほか、会話速度、口調（男の子／女の子）などの設定の変更が可能。

まとめ

- 展示されている教材・コンテンツについては、日本国内の同様の展示会でみられるものと特に大きな差はないが、台湾教育部の学習プラットフォームがあるため、学校は子どもたちが興味を持つものという視点に絞ってコンテンツを選ぶことができる。
- 日本の場合とは違い、端末の話はほとんどなく、教育コンテンツの話が主体となっているのが非常に興味深かった。国・学校・子ども（保護者）がデジタル技術を使って効率的で、効果的な、面白い授業をどうやって実現するか（体験するか）をしっかりと考えているように感じた。